

サッカーのヘディングを  
 長期間繰り返すと、記憶力  
 などに影響を及ぼす脳損傷  
 につながる恐れがある—  
 米研究者グループは1  
 日までに、磁気共鳴画像装  
 置(MRI)の最新技術を  
 使って成人のアマチュアサ  
 ッカー選手の脳を分析した  
 調査結果を発表した。欧米  
 で関心の高いヘディングの  
 安全性を巡る議論に一石を  
 投じそうだ。

米ヨシーバ大(ニューヨ  
 ーク)のアルバート・アイ  
 シンシュタイン医学部グラス  
 磁気共鳴研究センターのマ  
 イケル・リプトン副所長ら  
 が、シカゴで開催中の北米  
 放射線学会で発表した。  
 調査対象者は32人で、平  
 均年齢は30歳8カ月。全員  
 が子供のころからサッカー

## ヘディング

### 年間1000回以上

を続けている。調査対象者  
 をヘディングの頻度に応じ  
 て2グループに分け、それ  
 ぞれの脳の状態を分析した  
 ところ、年間約1000回  
 を  
 1500回以上ヘディング  
 する選手の記憶力や注意力  
 などをつかさどる脳の領域  
 に、交通事故などに起因す  
 る外傷性脳損傷患者と似

## 脳損傷に？

### 記憶力・注意力に影響

た異常が認められたとい  
 う。  
 リプトン氏は「高い頻度  
 で長期間ヘディングを続け  
 ると、外傷性脳損傷に近い  
 変化が脳に起きる有力な証  
 拠を得た」と指摘。その上  
 で「サッカーは世界中で多  
 くの子供がプレーしてい  
 る。彼らを守るために、こ  
 の調査結果をじっくりと考  
 慮すべきだ」と述べた。  
 (シカゴ＝小川義也)